

福島県「土壌スクリーニング・プロジェクト」活動報告 V

【期間】2013年7月1日～8月30日



J A新ふくしまが中心になり福島県生協連、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター、地産地消運動促進ふくしま協同組合協議会が共同してとりくみ、日本生協連が、全国の生協に協力を呼びかけています。福島が置かれた厳しい現状と安全な農産物を生産しようと努力する生産者・現地のとりくみを学び・共感を広げる活動として、いずみ市民生協は積極的にこの活動に参加しています。

■ボランティアの活動内容

サーベイメーターによる土壌表面からのベクレル／kgの測定機器（GPS 内蔵土壌汚染スクリーニングシステム）を使って、測定農地の確定⇒台帳と農地地図との照合⇒場所確認⇒現地⇒GPSにて台帳と実地の確認⇒記録写真⇒実測（入口・中間・出口の3ヶ所）を行います。

※具体的には、福島市の全農地を対象に水田、畑1枚ごとに放射性物質を測定して汚染状況をより細かな単位で明らかにする作業です。6月以降は、稲作がはじまりましたので、果樹園を主に作業をすすめています。

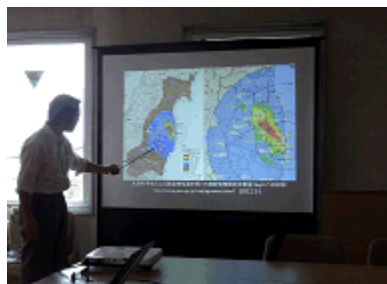
安全対策として、計測中は放射線積算線量計を携帯し放射能レベルを随時確認しながら作業します。

福島からの活動レポート V

【活動期間】7月1日～5日 【職員名】 CSR推進室／竹村

●7/1（月）

新幹線を乗り継いで、昼過ぎに福島駅に到着。



集合場所の、福島生協連にタクシーで乗り付けると、すぐにレクチャーが始まりました。

放射能が専門の野川先生から「放射能・放射線の基礎知識」と、「汚染の現状と対策」について。

また、農業経済が専門の朴先生からは「福島の農村・農業の現状と課題」についての講義。

放射性物質が半減する時期は決まっており、ヨウ素は8日、セシウム134は2年。よって、これらについては順調に減少しています。しかし、セシウム137は、30年たたないと半減しないとのこと。試験的に進めているこのプロジェクトの進捗状況は、水田で30%、果樹園などでは50%の到達。来年の春までには完了し、このエリアの成果を教訓に、他の地域への拡大を検討しているとのこと。



外で計測する前に、この活動を通じての参加者の被曝量を計るために、一人ひとりに放射線積算線量計が手渡されました。

この後、タイプの違う2つの放射線測定器を使って、建物中から近くの公園まで計測に行きました。同じ場所でも、地面に近いところでは高い値を示し、地面から放すと値は低くなります。

溝のコケの生えているところなどには、雨水などにより放射性物質が集積して、いわゆる「ホットスポット」となり、きわめて高い値を示すところもありました。

セシウムはいったん地面に付着すると、吸着するため、あまり移動しなくなる。この性質を活かし、地面から数センチを削り取る「除染」を行い効果があがっているとのこと。



写真の公園も、砂場の砂から地面の部分の土、そして、芝生もそっくり入れ替えているとのこと。公園や学校には、写真のような測定器が置かれています。当初、公園に来るお母さんたちが自前で測定すると、すえつけられた測定器の値がいずれも低い傾向にあったとのこと。疑問に思い調べてみると、意図的に低めの値がでるように設定されていたことが判明したそうです。

この件を受けてすでに修正済みで、この日の値は持参した測定器のものと比べると一致していました。

●7/2（火）

測定作業の拠点は、福島市農業サポートセンター。今回のボランティアメンバーは、竹村と、コープ共済連からお1人。J Aの方では固定メンバーが7人おり、この9人で4チームに分かれ、それぞれが車で持ち場に移動しました。



竹村は、J Aの方お一人と組になってまわりました。J Aの方は、昨年9月よりこのとりくみにかかわっているとのこと。

各チームが使うものは、「調査エリアの台帳」と「エリアの航空写真」、そして、場所を確定させる「GPS（黄色い機械）」と「測定器」。

J Aの方が測定順を決め、目的地に移動。

現在は、果樹園を中心に測定。水田は、水を張ると測定できないので、測定可能な時期が限られています。

現地に到着すると、果樹園の入り口部分と真ん中、そして一番向こうの端と、およそ対角線上に3箇所の測定が基本です。

一部、広いところは、6箇所や9箇所のところもありました。

測定器は、地面に置くオレンジ色の円筒のものと、データの受信機である黒いハンディ端末がセットになっています。

これを、黄色いGPSと同時に起動させ、各測定箇所の位置情報と放射線のデータを蓄積していくシステムです。

1箇所の測定時間は2分。時間が来ると、ハンディ端末の音声アラームが鳴り、測定結果が固定されます。セシウム134や137などの数値が表示されます。本日測定したいずれの箇所も、一般的な値でした。

本日回ったところは、桃・りんごの果樹園が中心でした。

さくらんぼの果樹園は、鳥よけのネットが張られており、入れなくなっていました。



●7/3 (水)



本日も8時半に福島市農業サポートセンターに集合。

J A新ふくしま営農部農業振興対策室の紺野さんが、朝礼でチームリーダーに指示を与えています。

土壌スクリーニングの活動も、よくは思っていない農家の方もおられるとのこと。ほかの農地との値の差が明らかになることは、補償制度が確立していない中、個別農家にとって必ずしも自らの利益に

なるとは限らないのです。

現場に居合わせる方には、しっかりコミュニケーションが必要。

朝、ホテルを出たところからぽつぽつと降り始めた雨が、午後からは結構雨脚が強くなってきました。機材は雨に弱く、高価なため、それぞれビニール袋をかぶせて測定を続けます。

われわれには鬱陶しい雨ですが、最近まとまって降っていなかったもので、農家の方には恵みの雨になりました。



ちょっとした雨でしたが、冬の雪の中の寒さや、真夏のかんかん照りの下の活動と比べると、気にならないレベルです。

測定器では、地表の放射線物質の、放射能の強さを計ります。

一般的には、4,000ベクレル/kg（セシウム134と137の合計量）ですが、同じ園地でも測定ポイントによって違いました。

サルや、いのしし、ハクビシンな

どの害が出るところは、園地に電

流を流して寄せ付けないようにしていました。

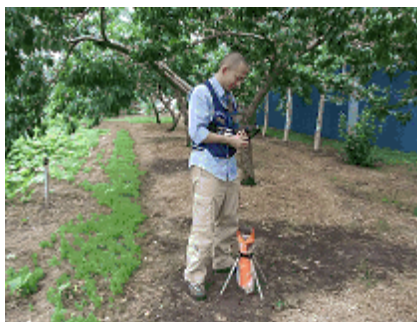
熊もいるらしい！？。

本日は、夜に交流会がありました。

ボランティア2人と、地産地消ふくしまネットの平井さん、月曜にレクチャーしてくれた福島大学の朴先生、ふくしま土壌クラブの安齋さんの5人。福島の現状について、いろいろと詳しい話が聞けました。



●7/4 (木)

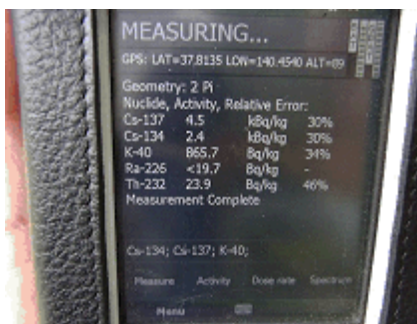


最終日は、お昼過ぎにばらっときましたが、何とか天気をもって曇りの1日でした。

本日も滞在しているホテルに近い、福島市飯坂町の果樹園をまわり、測定を続けました。

1日十数箇所の園地をまわり、1つの園地で基本的に3箇所のポイントを計測するので、1日に50ポイント前後の測定を繰り返すことになります。

これがハンディターミナルの画面



オレンジの筒状の測定器で計測されたデータが、この画面に送信されて、2分経てば最終的な値が確定されます。

セシウム134の半減期は約2年なので、すでに半分は消え去っており、137より検出値が低いです。



最終日の土壌スクリーニングが終了して、スタッフのみなさんと、われわれボランティアの振り返りの時間を持ちました。

アンケートを記入した後、同様の質問をされたので、口頭で補足し、お互いの意見を交わしました。

もう一人のボランティアは、東京からの参加だったのですが、関東でもすでに震災や放射能に関する報道は少なくなっており、ともに福島に来るまでは、さまざまな問題が見えにくくなっていることを実感したと話しされていました。

スタッフ側も、一人でも多くの人に来てもらい、残留放射能の実態と、福島に住む人々の現状を見て、問題意識を持ってほしいとおっしゃられていました。

7月1日（月）の午後から、4日（木）午後までの75時間の放射線積算は、0.011ミリシーベルト（11マイクロシーベルト）でした。ちなみに、東京・ニューヨーク往復航空旅行による（宇宙線による）放射線の被曝量は、およそ200マイクロシーベルトです。

【活動期間】 7月8日～12日 【職員名】 人事総務部／正木

●7/8（月）

初日、福島の現実をレクチャー受け、近くの公園に放射線量の測定に行きました。土や芝生は入れ替え「除せん」しているのですが、木の根本を測定器ではかると高い数値が出ます。子どもがそこで遊ぶと被爆する実態が潜んでいます。国や行



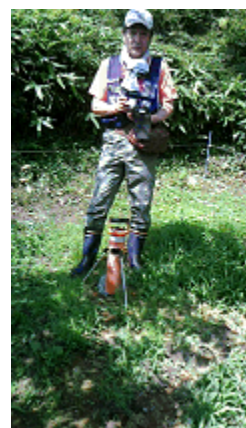
政が曖昧だから、土壌スクリーニングが必要だという意味も理解できました。

●7/9（火）



本日より、測定に行きました。桃、さくらんぼ園の測定をしました。

非常に暑いですが、ある果樹園では農家の方が、数値を気にされ聞きにこられました。



高い数値なのかと心配しての質問です。

今、測定している平均以下だと J A の阿部さんがお伝えすると笑顔でご苦勞様とお声掛けいただきました。また、冷たいお茶を差し入れていただきました。

●7/10 (水)

福島では、朝8時に放射線量の放送がFMで流れていました。朝から、ある果樹園で測定しているとご主人が近寄って来て、「東電が何しているんだ！」と第一声言われました。

「農協、生協、福島大学が測定している」ことをお話しすると、東電の対応問題、補償金まだ何も話してこないなど農家の不安、実状を聞くことができました。

●7/11 (木)

三日間で約150ポイントの測定を行いました。

農家の不安実状を聞くことができましたか、それ以外にも住宅が不足している地区、仮設住宅が福島市内にもまだ残っています。

何よりも、風評被害が大きな問題となっています。

福島から出た人、帰りたくても帰られない人、原発事故が起こした問題何時までも、消すことができない現状をうかがうことができました。



昨日、夜に福島大学小山教授の講義を聞く機会を事務局の平井さんが与えていただき参加しました。

地域づくりにおける地消地産、国や行政が本来考え推

進する課題を、教授を中心に農家の方々と推進していることなど知ることができました。三日間暑い日々でしたが少しでも役にたてたかと思います。

【活動期間】 7月22日～26日 【職員名】 宅配事業部／宇根

●7/24 (水)



除染リスト、GPS、航空写真を基にしらみ潰しに果樹園をまわる測定作業のお手伝いをさせていただいています。

現場同行させていただく中、リスト記載の住所に畑がなく直接農家さん宅に訪問し園地場所の確認後の測定作業になったり、なかなか思うように進捗していないのが現状です。まだ日本全国には数多くの風評被害が残っています。

ここで学んだ事実をいかに伝えていけるかがこの先、大切だと感じています。日本国内で起こった原発事故から2年・ただの一傍観者にすぎなかった自分。何か役に立てればと思い参加させていただいています。

本日はあいにくの天候の中での作業になっていますが一生懸命任務に従事したいと思います。

●7/25 (木)

昨晩は二本松の生産農家さんとの交流会があり、実際起こっている風評被害やこれまでに至る生産の苦勞話をお聞きしました。ひとつの地域での出荷制限が福島全体の話・と捉えられてしまう現実。

お話をお伺いする中、いかに事実を正しく伝えていけるか？ということの重要性を改めて感じました。
本日も昨日に引き続き悪天候下での作業になりそうです。
今自分にできることは微々たることかもしれませんが、少しでも力になればという思いで、がんばりたいと思います。

【活動期間】 7月29日～8月2日 【職員名】 理事会事務局／高野

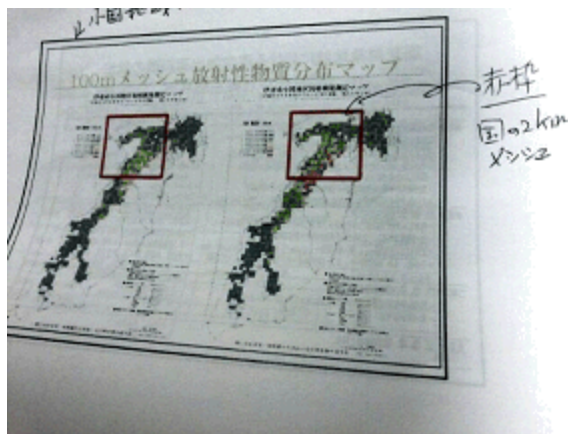
●7/29（月）

今週は「コープとやま」から2名、明治学院大学から1名（准教授）、国立歴史民族博物館から1名（研究員）、いずみ市民生協から1名の計5名が参加しています。（私自身は春に続いて、2回目の参加です）

コープとやまは、今回が初めての参加で、今後の活動のための視察とのことです。大学の先生方は、福島大学の石井先生の同級生で、土壌スクリーニングの活動に共感しての参加です。

1日目は、福島大学の野川先生と朴先生の講義・お話でした。

この間の土壌スクリーニングの活動の到達点など、改めて活動の意義を伺うことができました。この土壌スクリーニングは、「生産者の代表格であるJA（農協）と消費者の代表格である生協がともに活動していること」に意義があると強調されていました。



図は、国の放射性物質の測定の粗さを指摘しています。国の測定では2Km四方に1箇所の測定です。このような粗い測定では、科学的根拠になりえないのです。

実際にもっと細かく測定してみると、この2Km四方の中には、数値の引くところも高いところも混在しています。土壌スクリーニングのように、圃場1つ1つを丁寧に測定していくことで、はじめて科学的根拠になりえるのです。

◆生産者情報

2年間栽培・出荷を停止していた「あんぼ柿」の栽培が再開するそうです。果樹園の放射性物質の検査を行い、かつ収穫された柿は1袋（30Kg）ずつ、すべて検査して出荷されるそうです。

科学的に問題ないことを明確にした再出発です。

●7/30（火）



福島民報の朝刊です。1面は原発・営農支援で埋め尽くされていました。テレビ報道も含めて大阪との情報量の違いは、致し方ないと思いつつあまりにも大きい。

放射性物質の検査機器は、ならコープからの寄贈です⇒





測定の果樹園では、桃が輝くように実っていました。

この間測定の土壌の放射性物質は、ポイントにもよりますが1000～3000ベクレル程度です。果肉への移行は1/1000以下とのことで、安全性に問題はありません。

●7/31（水）

作業エリアは、JA福島駅の西（上野寺地域）で、果樹園の中でも平地エリアです。（住宅街、田、果樹園が混在しているエリアです）

梨園は、背が低く、かがみながらの作業で、りんごや桃園は体を伸ばしたまま測定作業ができます。測定する果樹園は昨年除染をしたところに限られています。そのため、農家の方とお会いして説明するとスムーズに作業はでき、トラブルになることはありませんでした。

「ご苦労様」と言って、「お茶」を頂戴することもありました。感謝です。

農家のみなさんは、測定数値をととても気にしておられます。除染後に測定した数値を覚えておられ、今回の測定結果を聞かれ少し残念な顔をされます。なぜかという、劇的に数値が下がる結果は出ないからです。過去の参加者からのレポートにあるように、セシウム134は2年で半減期ですが、セシウム137は半減期が30年です。ですから、去年の結果と今回の数値が大きく変わることはないのです。

これからも福島では何十年の間、放射性物質とともに農作物の栽培、日常生活をすごしていかなければならないのが現実です。

◆今日は、夜に交流会が開催されました-----

メンバーは、今回の作業に携わっているJAの方3名、福島大学の小山先生、朴先生、林先生、朝日新聞の報道部の方など多様な参加者となりました。

生産者との交流会という今までの形式ではありませんでしたので、JAのみなさんの思いや大学の先生方が、これからどのような課題があると考えておられるのか等、詳しくお話を伺うことができ貴重な機会となりました。朝日新聞の方は、土壌スクリーニング・プロジェクトのとりくみをとても熱心に聞き取られていました。これからも、取材を続けていかれるようです。

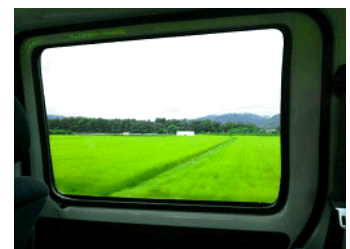
●8/1（木）

土壌スクリーニングへのボランティア参加は今回で100名を突破しました。ならコープ・コープネット・いずみ市民生協からの参加者がそれぞれ20名を超えているそうです。

土壌の放射性物質を測定することで、農家の方が安心して生産ができるようにしていきたいとJAの方はおっしゃっています。今後、測定数値をどのように活用し、農家のみなさんにわかりやすく伝えられるか、データが蓄積されつつあり、地図にそのデータを落とし込んでいます。

まだ、入り口にたつたに過ぎない状況です。

この春測定作業をした田には豊かな稲が輝いていました！（車窓から）⇒



【活動期間】 8月5日～9日 【職員名】 (株)ハートコープいずみ／西野

●8/5 (月)

今回は、ならコープさんお二方とハートコープ一名での参加となりました。土壌スクリーニングのボランティアは、ならコープといずみ市民生協で今までで40名ほど参加しているとのことでした。まずは100名をめざしたいですね。

本日は研修を行いました。放射性物質と言っても、ニュースなどで話題になっているセシウムだけが問題ではなく、実はその他の放射性物質も問題なんだというのには驚きました。また、種類によって半減期が違うとのこと。セシウム137だと原発事故以前の数値に近づくのに200年以上かかるのですが、半減期に1万年以上かかる物質もあるとのこと、取り返しがつかない事故がここ日本であったのを改めて痛感しました。

また、福島県は農業が盛んですが、ただでさえ難しい土作りが放射性物質によって、さらに難しくなっているのが現状だそうです。しかし、元気な土は手を加えずとも作物にセシウムを吸収しづらくなると聞いて、安心しました。

研修の途中に外に出て、実際にどれぐらいの数値が出るかを測定しました。公園に数値計が設置されており、大阪にないものが、さも当然のようにあるのがもどかしく感じました。近くの公園は既に除染済みでしたが、木の根っこあたりは若干数値が高くなっていました。道路の側溝も数値が高くなっており、除染は途方もない作業に感じました。除染したとしても、取り除いた汚染物質は水で流れたり、置き場がなく、逃がしようがないのですすまないなど、いろいろな問題があり「除染がすすまない・税金の無駄遣い」などに繋がっているそうです。

●8/6 (火)

東北地方は大雨でしたが、奇跡的に行動範囲内は洪水などありませんでした。天気はあいにくの雨。

傘をさしながら梨や林檎の実に当たらないように慎重に移動しながらの作業となりました。また、住所がまちがっているなどで一軒一軒の聞き取りもしながらの作業なので、なかなかスムーズに測量ができないのが現状です。機器が高価なため、雷のなっている時は測量しない取り決めになっているとのこと。測量中に農家の方が線量を聞きに来ることもありましたが、その数値が安全なのかどうかはわからないので、なかなか不安が拭えない様子でした。



●8/7 (水)



本日は久しぶりの晴天となりました。

昨日と温度差が大きいので、暑さですごく体力を奪われながらの作業となりました

(大阪と比べると気温が高くないので思っているよりかは楽でした) 果樹園の中は、蟬がいっぱい飛んで来るのですが、2日目となると慣れてきたのかあまり気にならなくなりました。

雨が降っていなかったので桃や梨が美味しそうに実っていました。

今の時期は桃の出荷シーズンだそうで全体が赤くなっている桃は糖度が高くて、美味しいとのこと。梨は桃の出荷シーズンの後とのことまだちょっと小さかったです。

車での移動がメインなのでペットボトルのお茶がすぐにぬるくなってしまうので、車載用冷蔵庫があ

ればという現場の声も聞かれました。

作業後は、福島県ユニセフ協会10周年記念交流会に参加させていただきました。

●8/8(木)

本日も晴天での作業となりました。

桃はより日が当たって、赤みが増していました。

農家の方で耳が遠い方がいらっしゃったので、筆談できるようにすればいいんじゃないかとアドバイスをしました。

なんだかんだであっという間に3日間の作業が終わってしまいました(少しでも貢献できたのかな?)



私と同年代の20代の方がスクリーニングのスタッフとしてすごく頑張っているの、ボランティアとして助け合いながらも、スタッフ達で率先してこの活動が続けていってほしいです。



←JAのスタッフのみなさんと共に

夜はならコープの方と温泉街をぶらりとしていました。懐かしの射的があったり、地元で有名な餃子もいただきました。4日間を通してマスメディアでは伝えきれていない福島を見られました。

普通に日常を過ごしている中での放射性物質という問題にどう向き合っていくのかをすごく考えさせられます。ちなみに4日間の合計線量は0.013マイクロシーベルト(mSv)でした。

【活動期間】8月19日～23日 【職員名】 人事総務部／三好

福島到着後、福島県生協連にて、

①1週間のスケジュールについて説明

土壌スクリーニング・プロジェクト事務局 平井氏より

土壌スクリーニング・プロジェクトを取り上げた「新聞記事」「マンガ紙」などの資料をいただく。

(新聞には、いずみ市民生協の熱田氏の写真も掲載されていました)

活動中の被爆量を測定のため、放射線積算計測機を受け取りました(常に身に着ける)。

計測器は携帯電話に近づけないよう注意を受けました。

②福島大学 野川憲夫特任教授から講義

「放射能・放射線について」「汚染の現状と対策について」

事故のあらましから、放射能全般、明日からの活動で測定するセシウムの半減期

についてくわしく説明を受けました。

③県連近くの道路、公園、図書館の空間放射線量を実際に測定しました。

コンクリートの県連建物内と建物前の道路では、線量が10倍違いました。



←雨水が流れ込む様な場所は、さらにその10倍の線量になっていました。

公園は、既に除染され芝が張り替えられていましたが、一時計台ではなく、線量表示機が設置されています。



町では「工事中」という看板をよく見かけますが、県連近くの図書館には「除染中」という看板が立てかけられていました。

④福島大学 朴 相賢特任研究員からの講義「福島の農村・農業の現状と課題」

土壌スクリーニング・プロジェクト目的や対策について、事例をあげて説明を受けました。

宿泊先までの移動で、道路わきに仮設住宅がありました。テレビの天気予報では、風向き・放射線量が流されます。

8/20日(火) JA新ふくしまにて、

①農業振興対策室 紺野室長補佐から、行動内容の説明を受けました。

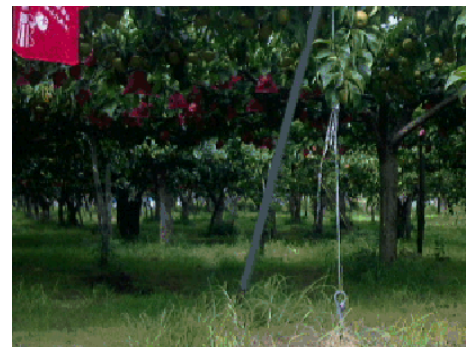
②ペアとなる鈴木氏から、器具の操作方法の説明と行動中の役割分担を確認。

実際の策定箇所は、梨園・桃園・梅畑が割り当てられました。



【3日間の測定ポイント(件数)】

20日(火)	46ポイント
21日(水)	42ポイント
22日(木)	42ポイント



初めて果樹園の棚の中に入りました。初日は、雨・風と不慣れなこともあり、不用意にすすめば、頭が梨にぶつかり落としてしまうこともありました。(せっかく、実ったのに申し訳ありません)

測定させていただく前には、電話を入れるか、果樹園横がお宅の場合はお声をかけさせていただくのですが、やはりご自身の果樹園の測定結果は気になられるので、観に来られます。

半減期などについてよくご存知で、「アト30年はこのままかあ」など独り言をおっしゃっていました。辺りの果樹園より、明らかに低いポイントは、「ココは、うねらしたから」ともおっしゃっていました。

【活動期間】8月26日～30日 【職員名】 組合員活動部／藤井

●8/26(月)

初日は、「福島の現状」と「福島土壌スクリーニング」の概要について、オリエンテーションを行いました。

■福島大学 野川憲夫特任教授の主な話

まず、放射能と放射線についての学習を行いました。放射線の強さを表す「ベクレル」、体が受けるダメージの目安「シーベルト」など、よく新聞で耳にする言葉の意味が、とてもよくわかりました。また、放射性物質の半減期についても数日で半減期を迎えるものから、何十年かかるものまで、幅広くあることも学習しました。さらに、実際の測定器をもとに、屋内と公園、放射性物質が集まりやすい排水溝などの放射線を測定しました。

屋内	0.02 マイクロシーベルト
除染作業をした公園	0.20 マイクロシーベルト
排水溝付近	0.80 マイクロシーベルト

■福島大学 朴 相賢特任研究員の主な話

福島土壌スクリーニングの目的のひとつとして、生産者と消費者が一体となって福島の生産の現状を知り、風評被害をなくすことであることを学習しました。

今回のお話では、「安全な農産物の生産を行いたい」「安全な農産物を消費していただきたい」という強い思いを感じることができました。明日からは、実際のスクリーニングとなります。地元農協の方、生産者の方とも協力し、すすめていきたいと思います。

●8/27 (火)



本日は、JA新福島の事務所に集まり、1グループ1日20か所のスクリーニングを目標に出発しました。地元の方と一緒に、3人グループで活動に参加させていただきました。

現在の測定は、主に果樹園。とくに梨の果樹園が多かったです。梨は、丁度170センチメートルの高さに針金を張り、それに幹を添わせて、栽培しています。よって、測定は中腰となり、測定器を持つての移動は、腰の痛い作業でした。

測定中、果樹園にいらっしゃる方からは、「測定結果はどうでしたか？」と、必ず聞かれ、その数値を報告すると、それは他と比べて高いの？低いの？と必ず聞かれました。

結果、本日、19か所72ポイントの測定をしました。

JA新福島の方曰く、JA新福島県内の全農場を検査し終わるには、果樹園は今年度いっぱい終わる見込み。でも、田んぼは、来年度までかかりそうとのこと。地道で、根気のいる、まだまだ先の長い活動だと、しみじみと感じました。

●8/28 (水)

本日も、昨日に引き続き、梨園を中心とした活動でした。(17か所72ポイントの測定)

現在測定している梨園は、樹木の皮をはぎ、高圧洗浄で除染した樹木でした。その結果、どうしても枯れてしまう樹木も・・・。

また、現地では、「除染」ではなく「移染」という言葉もよく使われています。

これは、A地点を除染し、A地点の放射線量が減少しても、それがB地点に移動し、B地点の放射線量が増加するというものです。原発問題の難しさひしひしと考えさせられました。

夕方は、NPO法人福島県有機農業ネットワークの方と交流会を開催しました。

この会の趣旨は、本来の野菜の生命力を活用し、旬の野菜を有機栽培している団体でした。原発事故

直後も、自分たちが育てた野菜をトラックに積み、東京で販売したそうです。当時は、都民の方から
厳しい意見をいただいたそうですが、それを乗り越え、現在では、発災以前の売り上げをあげている
そうです。代表の方は、「発災によって、日本人の暮らしを考えさせられるいい機会となった。
しかし、2年半経つとそのことが、また、忘れつつある。日本の本来の農業の持つ底力を発揮し、福
島を元気にしていきたい。」と、語っておられました。